リアルマネキンは招く
――マネキンはどこから来てどこへ行くのか――

序章

最近、買い物をしていて感じたことがある。それは、売り場でリアルなマネキン人形を見ることが少なくなったということだ。現在、売り場で用いられているマネキンといえば、顔はなく、髪の毛もない。あるいは顔はあってもパーツがないものかのどちらかが多い。ウインドに飾られている親子連れのマネキンでも、顔のないマネキンや、頭のないマネキンでディスプレイされていることが多く、物足りなさを感じる。顔がないと生活感やリアリティにかける。リアルマネキンのほうが生活感や、リアリティを感じ、目を引くような気がするのにどうして減ってきているのか。また、これから求められるマネキンとはどういったものなのかを考察する。

１章　マネキンとは何か

第1章では、論文を書くにあたり、「マネキン」の定義を定めた。また、マネキンの語源について述べた。この論文での「マネキン」とは、衣装の展示・販売、あるいは美術家・仕立屋などが使うモデル人形のことである。マネキンの語源は二つあり、一つ目はフランス語のマヌカンをローマ字読みにし、カタカナで表記しマネキンになったという説。二つ目は面白い説で、マヌカン―『招ぬかん』ではお客様がこないので、マネキン―『招ねき』にしたというものがある。

２章　マネキンの歴史

日本でのマネキンの始まりは島津製作所からであった。そしてマネキンは時代にともなって素材、体型、重さ、使われ方といったように様々な変化をとげてきた。作りやすく、軽く、長持ちしやすいポリエステル素材へと変わり、販売員はマネキンを扱いやすくなった。リアルなマネキンは経済状況と平行し、高度成長期には大量生産、大量活用され百貨店においてもすぐ目にふれるものだったのが、バブル崩壊後不況になりマネキンが激減した。その中で増えてきたのが抽象マネキンや、ヘッドレスマネキンだった。現在では、ヘッドレスマネキンや、抽象マネキンをよく見る。マネキンは、進化し続けていた。時代に押しつぶされないようにその時代にあったものを生み出されてきたのだ。

３章　マネキンはどのように私たちの前に現れるのか

日本のマネキン作りには、日本人の繊細な部分がみられ、使い勝手の良さなど使い手に優しく作られている。抽象マネキンとリアルマネキンの一番の違いは顔だ。日本のマネキンの場合、日本人でもなく欧米人でもなく国籍不明のマネキンで、洋装にも和装にも似合うようにできている。しかし、国内ブランドは日本型リアルマネキンをあまり使用しない。私は、もっと日本型リアルマネキンが使われることを望む。そして、日本のマネキンはすべてレンタルシステムになっている。レンタル文化は長きにわたって続いてきた文化である。レンタルの利点は、保管・メンテナンスなどのコスト軽減だけでなく、地球環境のことも考えられているというところだ。四季が豊かで、国土がそれほど広くない日本だからこそ、繊細でものを大切にする日本人だからこそ適したシステムである。

４章　ファッション美術館とマネキン会社を取材して

まず神戸ファッション美術館を訪れ、服を魅せるマネキンとはどういったものなのか考察した。そして株式会社七彩では取材をさせていただいた。たくさんの質問に対して丁寧に答えてくださり、これからはリアルで抽象的なマネキンが求められていくとおっしゃっていた。現在のマネキンの現状を知り、これからの課題が分かった。

終章　リアルマネキンが招く：マネキンはどこから来てどこへ行くのか

日本のリアルマネキンは、ヨーロッパから輸入した蝋人形を修復することから始まり、マネキンは日本でも作られるようになった。そしてマネキン＝「招き」（猫）という由来から縁起がいいとしてショップに置かれた。当時はリアルマネキンが主流で芸術性に富み、美を追求したものであり、ウインドディスプレイや、百貨店でも多く使われていた。時代に伴いマネキンにも冬の時代が訪れ、リアルマネキンは必要ないとして、什器やハンガーでの商品の展示が増えていき、そこからリアルマネキンは減少した。しかし、マネキンは服を売るうえで必要不可欠なものであり、今では抽象マネキンやヘッドレスマネキンと姿を変え、成長してきた。これから日本で作られたマネキンは世界にもっと進出できればいい。アパレル業界に限られず、さまざまな場所で活躍するマネキンを私は見ていきたい。

今後の展望

今後このテーマを継続して研究するならば、まだ解決できていないリアルマネキンのコスト問題について研究する。コスト問題は改善することが難しい問題であるので、売り場にフィールドワークし、現状のマネキンをもっと詳しく調査する必要がある。また、顧客の意見をアンケートにとって、好まれるマネキン・集客力のあるマネキンを考察する。

主な引用・参考文献

・欠田誠『マネキン美しい人体の物語』晶文社, 2002 年
・日本マネキンディスプレイ商工組合『マネキンのすべて続編 1996-2010』, 2011 年
・黒川美富子『ひとはなにを着てきたか』文理閣, 2003 年
・繊研新聞「主張し始めたマネキン」2014 年 8 月 18 日付記事
・日本マネキンディスプレイ商工組合『MANNEQUINS MUSEUM』http://www.jamda.gr.jp/, 1996 年 5 月 16 日参照